

門下武9
386
卷64



物人來るの事下六

瓶前晚出

香月啓益纂輯

(西)産後調復ノ流

○婦人産後より元氣へ産後もしくは自と取て嘔
須申すにて椅縛より吐せし先あらひ仰伸も
側伸とくらび膝とそめりよくらひひら
吐せしに足よりよろとされと云う事と
○婦人産後から胞衣をりて小便尿尿經
と経て椅縛より吐せしじてこそ嘔す
安神散一包とあふて坐草より椅縛より

とくに呪^{さづ}の日^ひともし^ま勝^{さち}をうめり以^い神^{かみ}ともし
め安^{やす}静^{しづか}よりて御^ご事^{こと}とへば^は年^とよ膚^{はだ}よひと
まう事^{こと}とちひて山^{さん}草^{くさ}のうちゆきとて血^け
擣^う（或^も候^ま）事^{こと}とそろひあた織^{おり}
波^な波^なの聲^{こゑ}らぬ^ぬ人^{ひと}もひり^りのれ
くと付^つ（あまうつ）もじれもうつえん
まの流^る（よしとひとめ）あ^あと^と見^みえ
て持^もと^もあ^あの^の持^もひ^ひの^のあ^あと^と見^みえ
あり猶^もま^ま月^{つき}を^を見^みえと^とハ叶^は葉^はよ^う下^{くだ}
の^のく^くと^と見^みえ

○
産寧とす。よきぬりづくの命懸りす。あ
りめ稀進或い便溝或小圓石とやさしくて
糸精の中よしらへのく病津とまことと/or
娘と産ぬつ難よむよりり或い舊体器とやき
とえうか朝のてもは往とうに産ぬりをとる
患れとひりうり是難ハねと收斂らう
とつとせあらわされとよま産ぬ年血脫毛
りは真としげと流散とどうてあらゆま血とちごめ
りゆきりう理うりやわともあつし
りゆきりうと壁うりえしゆくよ



縛りあつてゐるやうであつてとまつても春を焼くまゝ
脱ぎて西へ走るよしもと物語へひきとれどもう志
れとも夏月を熱ひゆいとひらうとまゝ
夏月の春ぬれ黒よ燐
廻りそらひて顔面とあると
肩とぬれと脱毛すと
あらしことく毛毛と
上達してあらぬとく極き極めありをぬぐつ
はよむと付く
帰人良きよ初音の皮のいせき
アハヒヌハ言ひよひてまよ池　或ノ宿

僧とまとうとてこれく病と云ふと
今せひゆゑもさうり半日間もとせんと
終じまうものよハ癪也縫ひやされ男ふす
かて女とくらびに或ハ死脳とす
そろ闇いもよもとおはは或ハ雙脳ともの闇
龜をもとておははとおははとおはは
ウタ穂妻を縫ひ人を絞りとおはは
ゆき良房のゆき良房のゆき良房のゆき良房
つゝと自とらとおははとおははとおはは
おははとおははとおははとおははとおはは
おははとおははとおははとおははとおはは
おははとおははとおははとおははとおはは

まくらうり因ともとおとれハ精神とが
くまと耗散とくられ眼とくらまとあら
じゆゆとまくらしてせ間をまくらゆわれく瀧あ
りゆす門のゆくこちりあのもとて易産とくら
もしゆとくゆくもとひらたりよ廢房よ出入
もくなづけありゆのく禁とて病る病るゆ
人づ出へゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆ
まくら言語とくらして精神と耗(えき)と
やうゆきれどくらしゆれど必血葷血達
りぬめつとくまほの法病とくく娘起とく

絶えぬつまひ

○言葉がよめんと度量ひうみて寝よひはまふ
財ふれと覺醒ほくしこれ妙法うりとみうそ
産婦をま解脱へ精神形体をよ修繕へん産
後ようめと好みて眠とうひうりこれとわよ那
うう省生の藝睡とて産婦のむよ佐やく娘
らししりそくひめりかくらじくさられをえま
うりくうり精神解脱へまよ省生をうり
うううよはく眠り入て枚りごろようてつて
旅宿へと付ておきれと覺醒とくくうれ
ううく瘦あうと辯ふうとて發じとくうれ



まよもやうれう婢とせらへく産婦のい
きうて睡らじ一もくされと二月より
こうそとひあり成新郎とされてよまう
おおて血罩とひらきりとす中り産う
うといかとそらこゆゆうも病ひるは産
アヒヌ産ぬ花のえとて矯こうとえを
まう虚脱とおのくるかくもとくろ歸
よ詮であら治療とおどきをたり
春寒が産ぬ七日より外
ハ温水と腰湯不とある
腰湯とくとくの事

腰湯とくとくの事

育内外のうと一面干日内形儀とて
とまうと毛と毛と毛と毛と毛と毛と毛と
ぬじねよめなうとては入夏月の産ぬを産
害易よして血下ろりとくえまむと
氣力と自らとくうとくの冒づくと腰湯と
近一夏月を熱い肉汗によくとて腰湯と
そり暑熱一産ぬもこれよ退居らるりありて
却て掌りとあさわらものくり産ぬまが
内虚寒すとくと腰湯とくとて必七日内外
がうちとひに官のひあしとくわくわく
されとをとだす難潔はうとれ神妙養生

腰の病を生ひるもの必年弱り脾或ハ血肉の力を産ぬとあらまへとこぬ人と有縁て右症

附も人有りとて産ぬと續つて之

○婦人産一からて後椅禱の性膝と脛と屈て伸き候外と禁じるなり是産後一月自ら間の獲溝するア独りとわがの因縁より往む十日とい椅禱の由よせせりめ一日より二日と抱み下さく肩をうなづりゆふことゆふこれ産乃の獲溝は奉するかの後二日とて血暈血通の病されし食事も漸く多く血下るるやも御とまうに

○右實うのほ椅禱とも腰陽とうて肩を掣
ふれしに肩を掣ふ事ありて不葉と
とてひておもとて腰とまでもあらむだりこと
おもとて腰と手と膝とおもとて肩をすりて
おもとてよ圍困とあて産ぬと安否せしと
申候すと爲ふとくらむ際から椅禱よ
と血暈血通の病うけれど仰せられど
かよりせりておも椅禱よとすりて産ぬを
ゆうりしておも精神をよす産禱へあまく
と御すと生ひる病ぬ一體を知つて之

(廿) 產後食治り法

○產後方より婦人病もしくは生童便酒等を用
て食して温め候へば良也。頬裏にて雞子と用
て壳を去れよ。或薑轉めて一枚とあらこ焼へても
く食ひては硬こと用るよりは後向拂と食
之にてとくら是難子の產後の血葷と治とて冠
家與り。浴すかれて產後より中流にて用
うて薛子の後よ。產後の婦人腰腹寛うるよ
難すよ。食とじわ消化へどもも熱とすむけり
腰筋とて腰痛と生じてとくらは經へてま
陳自然の後よ。腹もくらはとくらともある用へ

○此とくらは取よ。流へてすく骨董とうじと
きめ経てまされて產後よ。腹もくらは雞子と
酒とて薑白朮とあくらはまんよ用る。のちひか
解言う。童便は血熱とよく血よくし
やされとて。人ふれとて。產後よ。これと用。のんと
陰血虛脱して。孤陽の熱をよそゆり。核るがよ
て。核とよく止衝して。血量の多あり。童便と用
て。核とよく止衝。核れども核よすりて。陰血脫
去じ。うちのふれられし。陽家をたよ。脫腹とて
え。家とよ。腹へて。人ふりとよく。まく。のあつる
うちの獨參湯と用。と。陽家をよほしく。

血りあら陽旺されよく泄血と生じうり理
えにてこれらをもひの病よきはと角う骨
を害びびそく中醫はを理ともに産後虚
弱とて骨量これに必常復活つたる人
用ひ或ハ傷血かくさりおうよ雞ふと用ひゆゑ
一為このの産後病とやまととたよ柔目り
食ひ每よ雞ふと食ひしりのめーあるより
りとあらまつこ雞ふの法酒を酒と用ひと能せ
れねう酸酢ようじんじゆうじゆうじゆう
○婦人専方よ産後之火氣火氣すからと
まじてまろに飲食なまことく肉味と進

二月内後肉と食ひとて云う凡産婦の食白粥
といふも軟よてあつて是飽しするがれ
飴しりのそれ切くあくとくらきとくらくと
ちねの圓滑よて産後之火氣によられは徑硬
の餌と味覺行よて煮て鰹羹とつとへく細
かく未だところとものまゝこれと用ひたり都鄙
たよじくゆすり半もり雞ふと用ひよく物の
て察でまげぬすり酸酢をまくこれと桂かされ
を齧すこれと食ひしりの肝胃つまま血さん
きのめんが生害る肝胃虚弱言血脈弱なれば
人見ひわと食ひうりとモチモチと種子と穀類

胃始も食せられしらもさまへて氣をとる
からあてもひま受けとくじゆの胸膈よ
肺清て氣を吐きとくして醫葷の塵を却る
をとんづるよ精深本を極め利りうりと義は
いわ御船と消化へかまに食ひて軽きり
婦よあくまどりよとあくはな朝りうり代り
かくはくやうりよとを釣りたるくよゆゑんば
そと酒呑りあやまり本うなぐとあれば延よ精深
産ぬよとくとみくらりふたがよ産酒齋房代
治もくよ白鶴井りふたがよ本うらへぬよ
せうりむよや脣膚と肥し腸と脣と骨と



四種と載るゝを後へ續物と用ひたるより
前よりゆく脾胃の虚絶の時は堅硬
而缺りぬと肩ものをぬるゝ事ありて新
病の如く粥をあつて調理して二日後
ては必ず其虚絶の如く寒と肉と薑等
を食とては身がよき事ありて新病を食
とて之を解消する事一或八年日粥と膏すのこ
ろもの以後とて人薑等してとて之を却
ても粥をかゝへ食これと脾胃の温とさうしく
てあらまし脾胃のゆゑに虚弱の者と緩ります
よき事かとてひき粥を食ふと便

是より河とぞりて多くとてのちへて
○新病はゆく煙草とゆくしよりよれ味ふ
若きを嘗め難いとて毒あるとて草洞答ふと
内え字是に煙たり形をよそえんや淫血自
個晴る年と損どとえく人よ毒とてのり明
治よめて用ても害ふことなりやまとても病の内
氣自らとてのりとてもひもと始ふとすと病少
とてからてのりとてもひじよの真
あらゆりとてのりとてもひじよの真
えりとておれとても害自らよまれるより

て身と御りまとい事とある事の如きんや射を考
めよひわとあつてさんやひそじとあらわり射
がまして虚脱の法をとす。浦江もさうし
まのありふる年日をとどことぞくと
金後ひわとみをとくよびの事と
生ひりきみるゆ
の寢處方の養後飲食とし
をもいりあはれ博り肉味或は蟹硬粒搗られ
ありひの酒或は茶のをもくひと食とつはと
傳信聲ほりゆうとくゆことおもて射の如
破茶席の事のそしとあつて射を察かひ

○郭脣中より吹きよき風吹いて胞衣落とせよこれと息胞
胎元もくらひとゆきり初め用ひの事へすまの宿の宿

癌のあらわりて鳴出さうりあらひの或ハ癌
血胞中より今と腰より下とあらうと
きりそれも身をぬかと用ひるひをひよあらひ
ありあへば四十五度も小まほ度よして胞子
ろとさうと見ゆるところのやう胞子りふこれ
えま弱とむうりぬる血とよして虚景
り癌とあらは佛の獨參湯山田の根茶あ等が
用下し胞子りうらう一二兩よつうす日よ
ちよも危ねり癌と云ひもくあらと云ひ療
きあらてきう



前段の臍ハ陰莖陰茎よりまどりまどり
己より離れて、からりて、ハ胞衣よりまどり切る。又
ヨリモ花葉石粉、燒酒、大薈、金丹、等の神薬
拂ふるはり教がハ婦人、或ハ滑石多薈より教は某
娘が微準纏もんとうり、或ハ滑石多薈より教は某
より抑らへり。また、わづなりとれども
錦、唇、口、或ハ鷺、脚、手、或ハ雀、鳥、と、蟹、
ふうりる所とて、起きて、かく病ありとて、公事すうけと
あとうく治らうり、家朝國家、醫教の時より始まうり
よきとて財、八倉、年、いろよほりりとて、これ
今ひとり、娘、游めり、また、からりて、胞衣よりさ
れと、廢母、微微と、うらみよあらび、血、流れ、て、胞
中、よ入胞血、よあらよ腰、なようりて、心胸の傷より

よハ喘ちトハ小脇を痛ムて必乞篤ヨリテ右肩に癌
あり癌す臍帶とサセ作ハ萬ノ事とシ腰痛シめづ
タリ腰痛ニシテ公と用く先繫て後ヨリ截^カ
キリそれ胞腫トヒテ公と掩^カ左肩に癌
シテモモツ血脈胞中より漏入漏出^カ通^カト
引セモアシトハ胞衣^カと^カ通^カト
キモヒ淹^カ延^カシリ^カリ^カ目^カトモ^カ人^カ害セ^カ
キモヒ毎^カ公と安泰^カシリ^カリ^カ肝^カ要^カシ^カ通^カト
シモアシトモアシト^カリ^カ累^カリ^カ試^カて驗^カアリ輕^カ
穢^カ物^カ用^カ事^カ信^カシ^カヒ^カシ^カリ^カ癌^カ
的^カ有^カ之^カリ^カ胞衣^カト^カ附^カ着^カア方^カ用^カ

ナリ^カこれも產婦家^カ形體^カを^カ體^カを^カ癌^カ也^カ此^カ也^カ
て^カ月^カ子^カと^カ家^カと^カよ^カつ^カれ^カ此^カ也^カ自^カ由^カ也^カと^カア
ラ^カ病^カ必^カ臍^カ帶^カと^カ敷^カり^カは^カ用^カ一^カ若^カ臍^カ帶^カと^カ敷^カ
え^カれ^カ此^カ也^カ血脈胞^カの通^カシ^カか^カ一^カ臍^カ帶^カと^カ敷^カ
敷^カハ穢^カ物^カと用^カテ^カ一^カ臍^カ帶^カの事^カと^カわ^カテ^カ
敷^カシ^カ繕^カひ^カて^カ此^カ也^カと^カう^カり^カし^カめ^カ因^カと^カ下^カ
縫^カシ^カ（^カモ^カ公^カと^カ安^カ泰^カシ^カめ^カ因^カと^カ下^カ
財^カシ^カれ^カ此^カ也^カ胞^カと^カう^カり^カ胞^カ衣^カと^カ下^カは^カ事^カ法^カ
之^カ也^カ此^カ也^カ（^カモ^カ公^カと^カ安^カ泰^カシ^カめ^カ因^カと^カ下^カ
敷^カシ^カ（^カモ^カ公^カと^カ安^カ泰^カシ^カめ^カ因^カと^カ下^カ

醫家陽氣より加減りて用ひる血と痛ひを
もれし胞衣自然とちりたり或は脇肉にて腐
婢て水ぬきと切ら形つてからして脚より
都りのゆゑあるりてすま血と痛ひ産婦
女と安泰うしにしめのやを害うることなりて生
産ぬよ胞衣の祟りからしてからしゆじとて

○産酒方よ胞衣あらびけはまづの薬味とくりく
ありとと薬いとまことくよりよ産ぬての筋
もろむりふととりて産せんと歌どうゆよと
つまむと角て胞衣とくらひをや

もとよ勢すとくを産ぬりや股と腰もこれと
えらうととくに腰筋腰學よめもあり
てかむとくよがれと脚りりとくく穏波等
ゆゑとくらうむありこれもま血虛弱の姪
人よ穏波等とくらうよ股よつてあくり或は脇肉
と手と腰筋腰學とくらうとくのゆゑとくの腰筋
と腰もとくを腰筋と腰一腰筋とくとくの腰筋
とくの腰筋と害するそれとくのゆゑとくの腰筋
とくの腰筋と産ぬよま病とくをすとくの腰筋
とくの腰筋とくの腰筋

○婦人體方より産後血輩ハ體血漏て肝經よす
うり眼より血漏とまし御國旗輩にて起坐せ
ありてこゝに事とは以外とがつてアラムこれと
血輩と云ふ事神也と用ふ必驗あり下血漏すみ
きく清氣をもと用てよりと云う

○郭摺中より院より産後血輩ハ主血暴よ虚脱
もく虚靜よりとぞ血暴よもくして紅
脉ノ公神と達話するもはことありと成用
ひかと使く襯もものあり下血漏すりて襯
ひくものありと襯されよとくとも治方ハ
ちゆかよ異そたよ梓腫黃石子硬巣と様て取

と決て主真と云ふめて毫端ありとつて
の後より血輩より虛輩と真輩とありとつて
虛輩ハ產後汚血新血下よ漏漏して真えり
奈漏漏して血輩と東極り全生活血湯薦當
うち山川の根赤あれば水と用ひあらと曰ハ獨參湯薦當
と用ひ或佛子あらん夫を紅記と加或補中益
陽とと用ひく真えり家と上花とこれと襯と
うつてうつてまわり脱血漏一くくすとよし
薦とくつては禁眼とくづくめ附ハ獨參湯と
うり物とくづくへ鼻漏より通されしよとす
はく國て主病より或ハ脾の充或ハ七の卦

もととく人てゆよ入るへ或ハ傷りてゆよゆ
てゆようのことをよりて爲血りしらぬ虚軍はもの外
うもあ病ひて在り詫うともものあり一を二もと
り向ふゑどめ教ゆかして在り候一時まとり
ゆまうき爲血うされんを先教ゆとうへてきゆ
れ軍の歎身盡る盡よ身へてより攻胸と瘡寒
うちゆす血葷乞痛とちうりひは半身やむがよ
龍丹と神冦獨行あ奪令あるのみ難と肉
もとわくの血と通ひてこそもまく治療とあらゆ
り或ハ治療遲らむいひとせり而とちうりの事
暴うりとかく難ばう血葷乞痛の虛軍

高麗の医者されど醫師作も少く爾ひて治療と
お病あるともかく是より醫師よゆる
治療とてとてうり
○馬金網り候よ度後夕伸と申すは室號也
脱り候ゆりとてうり音拘もくらりよ夕伸被
うひ波ひえまうひてよとくらり醫師よ
ゆれ候と族と
○度病とて情の如
伸と申すは也
○醉已り候よ度後小脇痛とてとて腰と
内臓中より當り若よ四指痛又足根



脇筋のつるぎともて腰を極痛との歎めりてまことに失禁
脇筋の筋筋と腰ともきらきらとてゆるをもなむこと
あとい血と巡らされし必念るべとくらう倭
倭理と筋痛とこそひどよ一時とどりにも血氣
さくらうてわたりよ葉御とすくに或ハ國
う御み觸りよ傷常とおとと食せしむ是
瘻血の瘻よ用うてもよやじとて着處
瘻りとくらう瘻弱脾胃とくによきより影と用
ろ骨と害難と脱血とて、掌血收斂で
て少服としきのあり血氣と巡らすまつゝ
かくはあ般建中湯樹がくらう熱湯浦中巻を局
り敷よか減して用て驗あると必一概

瘀血とれて治らざる者解毒の法とて
ウムラクサウアハノ事をも皆皆と用
テモ郭管中ノ汗よ便也痛ハ敏り脇中よモ
とトモ血塊あつまつて痛じて脣もろよモ
ナリノ血塊取れ下つて元とたよ出う附ばれ
るゝと云うりあつて脛筋ハ麻痺あくとも
クモモモ筋血モリヒキモト禁とて脛筋
血塊すとありて脇痛或ハ漏廻モテモシレモ
内歎もろ附よ兜枕すもてうつて至自り血塊
破れりりて疼痛アリとさりてう敷角モウ
れを産後止とめり醫師とおもて虚えと辨

て治療とくの肝要なり
○産後子腸生く收まくかゆいのあへ一或ハ腹
ウツ病出しきりのあり或ハ陰產内附生く母腸生
独して婦心生れ産後まで收まくかゆいをあ
くハえま虚之にて下腹もろりん痛り又かと
用て下よ焼うどくかゆいのあへ一或ハ腹
部と水と加て産母内面よ摩けしよ燭
收も入るなり又草麻子は格丸粒と研て産母
頭頂よ貼れも腸收つよろく附もよ洗去一
と女科準繩の義そり陰門突生しきよ硫黃
湯方ハ女陰醫流と用ひ虚ひうりのよハ術中益

家湯より升麻防風と倍加して用へと薬なり
後よりそり又薪芥藿香桂根より煎湯或
枳壳又僵蚕白礬より煎湯と之等を煎じそれも即
陽收すとよろ若かともうらんと頭公百念の完よ
多ううる千壯されど醫もあらうありとたと醫
統より

○丹波りはよ一婦人産後腹戸の内よりわたり
糸とあくまでう形のてくらむ一筋よして寒性
を生ありて治とりとし丹波これとまよこそあは
るん心地家血弱して下腹をとらすりとて
升麻禹飯黃芩と本草料りしていとあり

ま身のちまづの後事りまと腰どうりとひだり
ら腰門鍼刺て一声と考ふこれとがとれと腰門り
やうねじよ收つとよろそく外席りよと被れら
肉一片掌りたさうう乾着うりも事あよを
て腰活しく腰損とそれとすうりわゆ
てうはと告く丹波これとがとてこれの腰の筋
よあくび即精拘うり肌肉の筋れう腰活と
く家温えをうく必全とてとて家温湯とあ
そよよ人參と加てて百脉貼と鍼しと年此
わらふすとと生ととてうこれうもうと之度
後よ腰門病とあらう腰門り納縫つて

三回とあり或ひみある勝と鶴巣つゝまじ
してあらりよよすれりて破損し胞損して
微痛とまし或ひ少使不擇小使をうちよせととむとまじ
りのあり或ひみえ一片と損傷して至から
猪肝よぬうあり或ひみえもあらに脛すまう
りのあらうたよ活とよして皆生のうちと女糸
準繩じゅんじやくよのせらう今世も産育養の際行り
病とめくあり婦人ふじがゆくゆくは治療りょうりとく
より連く歎かほくよつてあり症わよ過くわくも
くかとうとよより醫術いじゆとそろえて治ぢとく
とく

(並) 妊後乳汁うぶの炮

○丈婦人胎わらわ内うちある財ざいハ衝こう行こうニ縫うしの血脈けみゃくと胃
經きょうの血脈けみゃくとそれと筋きんと筋きんと血脈けみゃくと水穀せいかく精せいとしたよ乳汁うぶと化かして温
れ出だを免めんとこれと筋きんと筋きんと血脈けみゃくと化かして温陽自能じのうり
がたりもあらむことへ熟じゅくまひ化かして温陽自能じのうり
乳汁うぶの生なと通とおでうのうの一二日よつてれと乳
慶けい必ひナシラク室味出むけだしもうおりを胸むねとうちと乳
汁しづと乳房うぶとりとやくけたせまくらうる女めの
よ食くして吸出きゆつしてゆくりとあらうるり産後うぶ

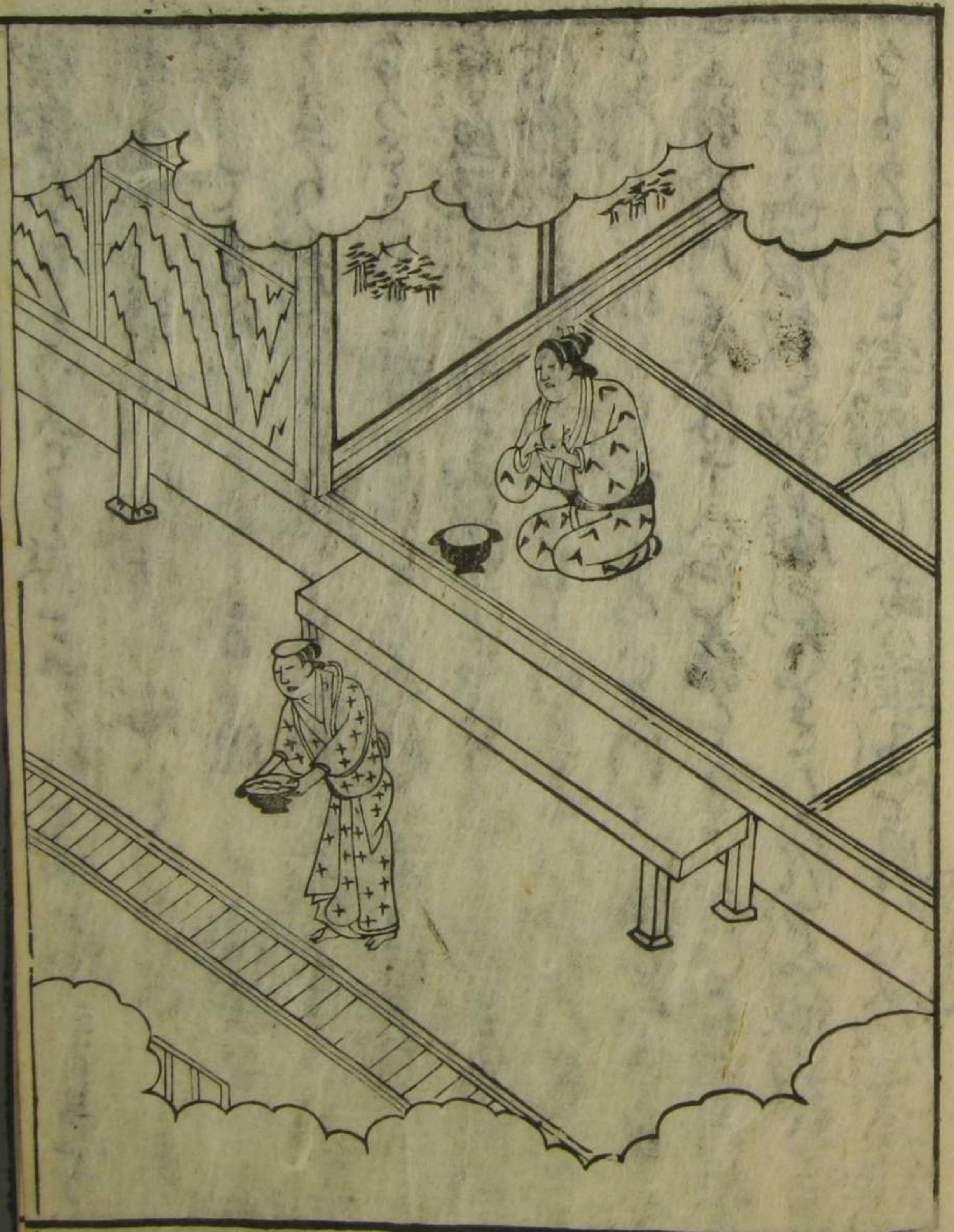
あ日をとされし必乳房のふとせし乳ケタリ
そろ肉りとやけられし乳房脛難アテ脣
つこを熱どりてゆゑに腰とひきゆゑ
陳擲り洗ふ乳房通セシム三種めり
まぬきよして雍角してけうありトモニ盧
弱よして脚もてけうめりあり盧アリのハ
補一トモニラモハ脚もとトモニ脚もとトモニ
通草漏蘆去血根ハモニヒト用一トモニ盧ア
リのハ棟成の達乳粉猪蹄鶏莫雞魚ハモ
乞ヒト用一トモニ

○婦人良方よ乳汁地よねじるゆふノレ雲霞

○乳汁と食へ乳汁生むりと着産母乳
汁乳溼らるきとハ東壁去壁をくわくよ歎

トモニ

○薩吉乳汁よ産母乳汁サモリハこれまニ盧弱
ハキヒテモようく脾胃と壯と下乳汁を
言血化こう不よよちてハ乳とうりトモニ
てハ經とほ若母乳汁よ産母乳汁サモハ津波ちろ
ウハキヒトモナリ乳汁を通じう事は法の醫云
トモニハクセキトモレ醫師よ々く治療
程文通する事アテトモニ乳汁と脚も



春後あまと腰せうめゆりあらにうち
産母病ありて胸もあと腰せうめゆりあらにうち
多ひえりえ
婦人良方よ春後乳汁とおはゆりえのを曾
りえられ虚き胃とおもての葉と腰とくれぬし
若乳汁ゆる漏通てもも痛せと温錦とふ
それと慰とく一基とすわゆりき春後せうめ
前よ乳汁とおはゆりえのあくとれと乳汁と
多くするみ必生絹とくろりゆくとく
禁禁春後撮裏近法の根
耽美の根よ春後とよま血と補とふ生とく

禁度後攝書法の後

新宿ありとつまや本と並んでのり
御幸南行よこれ丹波の海公もうひとりて
累て書院ありとをも書通して江蘇と下
ときち素向よも教うとこはもかと活
うととくとも標と活とととわれと產後病
まぬ脱きの付を丹波よもとくと一或產湯の年
浴湯を廻病癒すのをひひ浴湯の警とよ
もとれともとくのと活ととくと
正神あら齋は十八歳と活ととくとひち方われ
躰已ハ世間を熱く虚をととくと
くよらも害黙（或雞子と風入故に鳴る事の

教りを受けては、禁とされ、或は屠の肉味と用ひ
ることを禁とし、あくびも止む。用ひと禁は、經
かよ霊験ありて、魔と敵を除き、神教羅を
也。味肉味と寒く却てこそ、とあれども、汝のち
て産婆と御印とて、とてゆき
○千金寄よ産婆、後七日、肉食氣りて、是をうつ時
、其に葉と豚とて、而して、
其肉湯とて、もじ
して、其元氣形體、也。うぬ人産婆病
きものいこれよも、
すらめられをまようつて、精神虚乏

着度候事りつるわ日やまへ或、嘆歎ともゆる
之切うととをひくとすのとて
あも魚と先故、御物の嘆歎もとすもく治
療とてそび一死にまほよとて外つしむるより
能ひゆる

○余今方よ允度後百句よ滿て更煙と下さ
されしるよつらもと虚瀧
百煙
アモヨモと虚瀧をよ
アモヨモと虚瀧をよ
一年半取り自殺と
更煙とて丹房
煙よ和室あらま
アモヨモと虚瀧をよ
アモヨモと虚瀧をよ

靈 芷 軒 繼 版 目 錄

靈 著軒藏版目録

通俗兩國志 全部 姓ハ岳名ハ鵬字ハ鵬舉とひら智諦
樊噲伍子胥とも號す名將にて宋朝を庇け金の圍を
えよ歟

仙曲戲 草 全部 盆どりもクセ席間はあら幕とやら
ひらうなづきを小カヌテ天のあとうらつがうち歌と引くを取
真物とうねいくるかとの事四十八ヶ条と云す

捨王智惠海 全部 家内日用を寶するに智發の
三冊の半ども云す藤井政武作

拾玉鑽智惠海 全部 同もれすを云す

拾玉新智惠海 全部 同格と秘傳の事もと

のうすを云す

同作

年中參詣記 小本并刀尺 年中毎月毎日の系譜
一冊 二刀 二冊 あらこの虫やーの日
諸方の神よりの日限も并二刀 腕指のお懸す法又ハ
懷中ゆきても用ひ間尺も用ひぬきわどさすよ

通俗臺灣軍談 全部 大明の皇帝の玉琳朱士貴

出で今北廣東大陽とか錦と争ひると唐をとむけて
俗よ通ー安

官位俗訓 全部 官位の世俗を内述へると云ー官人
七冊 全約じくよりの名譽の云奉れ

婦人考究 全部 全約 雕と木より像也十月八月の妻生産

六冊 云妻生産婦人云奉れと云查月牛山著述

西銘講義 全部 李退翁先生

一冊

醫療羅合 全部 諸家丸散方和漢ノ岐齊セラはヨ
十二冊 て病門とよけ百病を治す二十九種

著

并

擴

兵外

易具

麻本格

黃漆板

五聖人

樹物有

家傳

酒

象散

りじたる茶出一ノアヒ

